

平成 24 年度通常（第 3 回）理事会議事録

日 時： 平成 24 年 12 月 8 日（土） 13：00～17：30

場 所： 岸記念体育会館 505 会議室

出席理事：（敬称略、順不同）

河野博文、西岡一正、植松眞、森山雄一、中川千鶴子、前田彰一、児玉萬平、鈴木修、齋藤涉、鈴木國央（委任：山本嘉一）、山田州子（委任：河野博文）、末木創造、松原宏之、中澤信夫、餅啓一（委任：児玉萬平）、相澤孝司、平井昭光、森信和、坂谷定生（委任：平井昭光）、高間博之、山本嘉一、守本孝造、井川史朗、斉藤修、吉留容子、剥岩政次

以上 26 名、委任状 4 名

出席監事：浪川宏、栗原博、中村隆夫

以上 3 名

オブザーバー：堤智章国際委員長、永井真美環境委員長、増田開ルール委員長、斉藤威普及委員長、大坪明外洋安全委員長、川北達也指導者副委員長、豊崎謙広報委員

議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 26 名、出席者 22 名（内、委任状 4 名）により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

定款 33 条に基づいて、河野博文会長が議長となり、平成 24 年度通常（第 3 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を前田彰一専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、平井昭光、守本孝造の両理事が任命された。

河野会長から、制式艇導入が進んでおり、JSAF も国際化に一步近づいている。今後は、420 ワールドを和歌山に招致したい。また、2013 年はシーボニアでブラインドワールド、2014 年は佐賀県でレーザー 4.7 ワールドを開催するので理事各位のご協力をお願いする。また、2020 年オリンピック招致候補都市に東京が残っている。なお、重要案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

< 審議事項 >

1) 定期表彰規程の改定

鈴木常務理事から資料に基づき、定期表彰規程の改定について説明があった。

JSAF 表彰規程第 2 条第 2 項の功労賞に、団体等に対しても表彰対象とすることとした。また、表彰規程細則第 2 条第 4 項の団体の取扱について、「上記（2）各号のいずれかに

準ずる功績があった団体において、理事会で審議の上、功労賞の対象とすることがある」と変更した。

栗原監事から、団体を功労賞の対象とすることか。個人は生涯 1 度の受賞であるが、団体は未来永劫存続することから何度も受賞対象となるのかと質問があった。

平井理事から、表彰規程第 1 条で「者と団体」としているのので、表彰規程細則第 2 条で変更すると文言上支障をきたすとの発言があった。

鈴木常務理事から、団体の功労賞は理事会で都度検討する。また、表彰規程細則は現状として、表彰規程第 2 条第 2 項の一部文言を修正するとの発言があった。

一部文言の修正をして、承認された。

2) 平成 24 年度定期表彰

鈴木常務理事から資料に基づき、平成 24 年度定期表彰に係わる受賞候補者推薦依頼について説明があった。

平成 24 年度定期表彰受賞候補者推薦書につき、表彰種別と審議対象者は、功労賞 4 名及び 1 団体（荒川昇氏、北川浩司氏、鈴木高明氏、林賢之輔氏、JSAF 外洋三浦小網代フリート）、優秀指導者賞 2 名（松田任弘氏、柳敏晴氏）を取り纏めた。2013 年 1 月 26 日開催の全国加盟団体代表者会議において表彰するとの発言があった。

満場一致で承認された。

3) JSAF 規程集（公益法人化に伴う見直し）

鈴木常務理事から資料に基づき、公益法人移行に伴う JSAF 諸規程の新設、見直しの件（案）について説明があった。

公益財団法人移行時に新定款を制定したことに伴い、従来旧寄付行為の下に制定されていた下位規程等の新設・見直しを行った。新公益法人制度では、内部統制関係（情報公開、個人情報管理、リスク管理、コンプライアンス、公益通報者保護等）諸規程の整備が要請されているため、これらを新設した。所轄委員会の規程等は、当該委員会に現行諸規程の見直しを行った。また、JSAF ホームページ上の掲載は情報公開の可否を検討したとの発言があった。

満場一致で承認された。

< 協議事項 >

1) JOC 寄附金の返還計画

斎藤理事から資料に基づき、JOC 補助金等の返還請求について提案があった。

平成 24 年 4 月 20 日付け JOC からの補助金等の返還請求について、JOC 総務部長ならびに JSAF オリンピック特別委員会関係者と協議した結果、平成 24 年 12 月 28 日までに 18,655,055 円、平成 25 年 5 月 31 日までに 15,000,000 円（完納）を支払うこととした。平成 24 年度予算上では年度内に返還予定だったが、資金繰りが厳しくなる経緯から確実に返還できる時期記事を明示するようにしたとの発言があった。

2) オリンピック特別委員会の方針

西岡副会長から資料に基づき、オリンピック特別委員会の方針（案）について提案があった。

オリンピック特別委員会（以下、オリ特）の方針について、過去 2 回のオリンピックに企業側スポンサーとして関与してきた経緯から、オリ特は環境整備等の間接的な業務に集中してきた。選手及びコーチ陣は海外の情報、交流を積極的に利用しておらず閉鎖的で、競争環境の進化（科学とアスリート化）へのアプローチに欠けていた。オリンピックに向けた基本戦略として、オリ特が直接選手育成強化に取り組み、マーケティング戦力で自主財源を生み出すことを提案する。

リオデジャネイロ・オリンピックに向けての活動基本方針は、オリ特が主体となって企業スポンサーの協力の下に、選手強化に取り組む。オリ特メンバーは現場で強化に専任し、マネジメント関係は別組織にする。活動に対する理解を得るために、透明性を担保し、広報活動を積極的に行う。国内強化合宿を充実させ、より多くの競争の場を提供する。活動資金については、これまでのオリ特内で完結した予算から、今後も持続的にオリンピックの活動ができる資金調達の仕組みを JSAF 全体で考慮すべきである。

最後に、連盟としての長期的視点に立った価値観、目標をつくる。JSAF として組織が目標に向かって一体となって行動することを環境作りとするとの発言があった。

堤国際委員長から、過去にオリンピックキャンペーンをしていた経緯を踏まえて進言すると、ナショナルチームの選手は TOIEC700 点レベルとするなど、選手・コーチは語学能力が必須である。海外コーチ招聘も検討すべきである。また、ISAF 総会において 470 はコアイベントから外れており、470 は男女 MIX で一種目となる流れであると発言があった。

植松副会長から、オリ特はオリンピックでメダルを取ることであるが、リオデジャネイロでは可能かとの発言があった。

西岡副会長から、語学はオリンピックを戦う選手には素養の一つである。長期的に選手を育成することも大切である。現組織には多くの批判もあると理解しているが、リオまで 4 年計画でスタッフを含めて組織を考えている。少し時間をいただきたいとの発言があっ

た。

平井理事から、JSAF 一会員として会費の一部がオリ特に別貢献しているのか。また、JSAF 会員とオリンピックについてコミュニケーションし、意識させることが必要であるとの発言があった。

西岡副会長から、現在は会費を使用していない。しかし、今後は会員一人一人にオリ特の活動をオープンにして連盟全体で支えていただきたいとの発言があった。

森山副会長から、JSAF 主導でオリンピック活動を推進することは必要である。財政基盤については、連盟またはオリ特として商品化できないか考慮することが必要であるとの発言があった。

西岡副会長から、オリ特強化事業に冠スポンサーを募る。また、艇体やセールにロゴを展開するなどを考えているとの発言があった。

3) JSAF 保険制度の見直し

児玉常務理事から資料に基づき、会員メリットとしての JSAF 保険制度見直しについて提案があった。

JSAF 保険制度を会員メリットとしてアピールして会員増強の一助となるために、現行制度の改善提案を各保険会社から求めて、JSAF 保険制度に反映させる。メンバー保険については、現行の保険料の範囲で、補償範囲（死亡・後遺症傷害）を下げるかわりに、新たに入院・通院補償の保険を求める。主催者・総合賠償責任保険については、現在ディンギー系、外洋系で運用・適用範囲が異なって 2 本立てになっているので、簡易な運用が保険を求める。外洋ヨット保険（ヨット・モーターボート総合保険）については、任意で加入する保険であるが、会員艇のメリットとして旧 NORC のときの団体割引をして JSAF 登録艇を推進するとの発言があった。

平井理事から、保険を JSAF で担保する必要があるのか。現在、セーラーズ保険（スポーツ安全保険）を任意で加盟団体は運用している。参考までに、スキー連盟は保険を用意しているが加入するか選択させているとの発言があった。

西岡副会長から、会員保険は会員個人に選択させるべきであるが、主催者責任保険は連盟で考慮するべきであるとの発言があった。

前田専務理事から、JSAF 保険制度見直しの意向と方向性は理解した。会員獲得のメリットとして、再度条件等を検討して提案していただきたいとの発言があった。

4) 会員の本部登録受付とシステム改善

鈴木常務理事から資料に基づき、JSAF 会員の本部登録受付開始ならびに今後の会員登録システム改善等に関する件について提案があった。

公益財団法人移行に伴う新定款制定にあたり、会員登録手続については、従来の加盟団

体経由に加え本部登録手続きを可能とした。今回、「現行の会員登録システム改善」に関する現在までの検討状況と今後の対応について報告する。本部登録開始時期と実施方法については、平成 25 年度から新規・継続会員登録を本部登録開始とする。現行の会員登録システムの再構築を図る。会員増強へ向けて、各加盟団体において継続的な会員獲得の維持活動に取り組んでいただきたいことと会員サービスの改善を検討したい。

また、会員増強プロジェクトで行ったアンケート結果は、全 131 団体中、回答数 69、無回答 62 であった。JSAF 登録会員数は横ばいか減少傾向、その理由としてはセーリング人口の減少の回答数が多かった。登録担当者との連絡方法はメールの回答数が多かった。その他意見では、新規・継続会員登録手続は JSAF 直接を希望する、会員証発行の速やかな対応、JSAF からの特典や PR 方法、会費の見直しなどの意見があったとの発言があった。

前田専務理事から、団体会費を徴収している愛知県や広島県および外洋団体などの意見や問題点をいただきたいとの発言があった。

守本理事から、外洋近北では団体への負担をお願いしているのが現状である。公益団体として本部登録は必要なのか。加盟団体はボランティアで会員を集めているとの発言があった。

児玉常務理事から、本部登録と加盟団体登録との会費やレース参加条件との団体間の差や不公平感があるとの発言があった。

吉留理事から、本部会費徴収額と同額の団体ではオンライン登録・本部一括登録は歓迎であるとの発言があった。

植松副会長から、団体間の競争原理は必要で、付加価値のある加盟団体の組織率は高い魅力があるとの発言があった。

平井理事から、ボランティアを基礎としてサービスで差をつけることがしにくい加盟団体間では競争原理は働かない。本部登録を原則とするには加盟団体のコンセンサスが必要であるとの発言があった。

鈴木常務理事から、本部と加盟団体で会費を別徴収するシステムを構築する必要があるとの発言があった。

守本理事から、JSAF 全会員は本部登録で団体会費は別ならば公平であるとの発言があった。

斎藤修理事から、JSAF 本部がメンバー登録業務代行すると手数料は団体に還元しないことになるのかと質問があった。

平井理事から、現提案を各水域団体に説明し意見を聴取することは、多種多様な意見を招くこととなり困難である。まず JSAF から加盟団体の将来像を明示することが必要であるとの発言があった。

児玉常務理事から、理事会としてメンバー増強のデザインをして、本部登録のあり方

を各団体との調整する必要があるとの発言があった。

鈴木常務理事から、インフラ共通基盤、本部と加盟団体の役割等の論点を整理した提案を全国代表者会議に提案するとの発言があった。

5) 外洋安全委員会 通信に関わる 2 規程の改定

大坪安全委員長から資料に基づき、通信に関わる 2 規程の改訂に関して提案があった。

通信に関わる 2 規程「JSAF 所属海岸局管理規程」および「JSAF 所属海岸局への加入・登録規程」の改訂について、所轄委員会の消滅、現状の実態との乖離および会員の便益性の向上を図ることを理由としている。JSAF 所属海岸局管理規程の主要な改訂点は、タイトルを変更した。海岸局の開局および廃局は所属加盟団体および特別加盟団体の任意とした。無線海岸局の運用に関する詳細条項をすべて削除した。財産権の非行使を明記した。JSAF 所属海岸局への加入・登録規程の主要な改訂点は、タイトルを変更した。加入規程と加入要領に分割した。加入費用の支払先を明記した。また、要検討事項として、加入証明書発行申請手順の統一化と加入費用の整合性を見直す必要があるとの発言があった。

西岡副会長から、現在の外洋レースでワッチをしているのかとの質問があった。

< 報告事項 >

1) 評議員の選定（評議員選定委員会議事録）

前田専務理事から評議員選定委員会の高木伸学委員長の資料に基づき、現在 2 名欠員となっている評議員の補充について報告があった。11 月 22 日に開催された評議員選定委員会において、藤井清一氏、二松工氏の 2 名を補充評議員として全員一致で選任したとの発言があった。

2) 平成 25 年度行事予定（案）

前田専務理事から資料に基づき、平成 25 年度（2013 年）JSAF 行事予定（案）について報告があった。理事会は本年度同様、年 5 回開催するとの発言があった。

3) 会員増強プロジェクト アンケート調査結果

鈴木常務理事から、会員増強プロジェクトのアンケート調査結果は協議事項（4）で報告したとの発言があった。

4) ユース制式艇種検討プロジェクト 420 艇購入

斎藤理事から資料に基づき、制式艇種 420 級の購入、寄付金の受入状況、収支見込みについて報告があった。

本年度艇購入はノウティヴェラ社から 40 艇購入、2013 年 40 艇、2014 年 50 艇を購入し、配布予定としている。寄付金は、目標募金額を 4000 万円として実施している。現在、募金受入額は 2515 万円である。今後 5 年間の収支見込は、4000 万円の募金が集まれば、艇購入費と関連諸費用の支払は可能となり、最終残高は約 500 万円（予想）となる。ただし、インターハイ等の定点開催のためのコスト負担を考慮するとさらなる募金が必要との発言があった。

森理事から、インターハイへの出場のために各高校へ JSAF からさらなる支援をいただけないか要望があった。

西岡副会長から、高校ヨット部 123 校に 420 級 1 艇を無償もしくは一部負担で配分して JSAF 支援は 4 千万円である。高体連にも努力していただくことが必要であるとの発言があった。

河野会長から、制式艇導入に JSAF は寄付金集めに努力している。和歌山定点開催やワールド開催の場合、和歌山県セーリング連盟も努力してくれているが、チャーター艇も含めて JSAF は一定の支援が必要になる。役員・大口企業・メンバー各位のさらなる協力をお願いしたいとの発言があった。

守本理事から、免税寄附を推進している公益団体のパンフレットをサンプルとして持参してきたが、制式艇導入やオリンピックへの寄付金にも使用できそうなので参考にしたいとの発言があった。

植松副会長から、制式艇導入に一定額の寄付した法人・個人は、艇体やセールにロゴ等の表記ができる。関西ヨットクラブに寄付依頼をしているし、各加盟団体も支援いただきたいとの発言があった。

平井理事から、理事会の決議事項は JSAF 全体で協力をするべきである。また、趣意書をだしていただけたら、団体へ依頼できるとの発言があった。

5) 国際委員会 ISAF 年次総会報告

堤国際委員長から資料に基づき、2012 年 ISAF 年次会議および総会について報告があった。

2012～2016 年の ISAF 会長はカルロ・クローチェ氏（イタリア）、副会長 7 名の内、アジアからはリー・チャンハイ氏（中国）が選出された。新カウンスルでは、大谷たかを氏が再選。新委員会では、イベント委員会に大谷たかを氏（再任）、艦装委員会に堤智章氏（新任）、競技規則委員会に柴沼克己氏（再任）、オフショア & オセアニック委員会に小林昇氏（再任）、レースオフィシャルズ委員会に田中正昭氏（新任）、増田開氏（新任）の 6 名が選定された。2016 オリンピック艇種を RS-X からカイトボードに

変更する提案を 2012 年 5 月ミッドイヤーでイベント委員会推薦を覆し、カウンスルで決議した結果、RS-X が再変更される案が可決された。今後の課題として、国際的に活躍する人材の確保、ISAF 総会の招聘や 420 または 470 ワールドの開催などを視野に活動していきたいとの発言があった。

6) 国体委員会 ウィンドサーフィン級規則変更と国体艇種変更の進捗

末木国体委員長から資料に基づき、国体艇種の変更および国体ウィンドサーフィン級規則の変更について提案があった。

国体艇種の変更については、9 月 8 日理事会協議として提案、その後、日本体育協会と協議を進めて日体協国体検討小委員会が審議を進めている。変更内容は、成年男子国体シングルハンダー級をレーザー級、成年女子シーホッパー級スモールリグをレーザーラジアル級、少年男子・女子の各種目につき、二人乗りクラスは国際 420 級、一人乗りクラスはレーザーラジアル級の採用とした。変更時期は、2015 年（平成 27 年）第 70 回和歌山国体からとする。

オリンピックやワールドを見据えた艇を JSAF が導入したこと、インターハイ・国体・ユース大会での採用艇を一本化することで、選手の強化育成ができることの一定の評価を得られた。12 月 20 日に日体協の国体検討小委員会で最終審議がある。都道府県連の財政状況や練習環境の整備などの問題点を克服しなければならない。

国体ウィンドサーフィン級規則の変更については、現在使用のロングレースボードが生産されず、新規購入ができない状況であった。2011 年にハイブリッドボードである RS-ONE がワンデザインクラスとして ISAF に登録され、これにより幅広い選手層に公平にレースが実施できる状況になったため、今回対象ボード 4 種類が国体使用ボードとしてクラス規則を改正するとの発言があった。

7) ルール委員会 IJ セミナー報告・JSAF 規程の英語版

増田ルール委員長から資料に基づき、ルール委員会報告があった。

セーリング競技規則（RRS）の改定に伴い、2013 年 1 月 1 日発効の改定日本セーリング連盟規程（JSAF 規程）の英語版を ISAF に提出する。2012 年 7 月に和歌山で ISAF-IJ セミナーを開催した。受講者 21 名中、日本から 1 名のみ有資格者を輩出できた。今後、継続性を持った IJ 輩出のためには、英語でのコミュニケーションの克服と記述試験（認定事実・結論等）の精度向上が必要であるとの発言があった。

8) レース委員会 全日本選手権大会公認・後援リスト

前田専務理事からレース委員会から提出された資料に基づき、全日本選手権大会公認・後援申請状況ならびに全日本選手権等の JSAF 補助事業改善要旨について報告があった。

全日本選手権大会等の大会は、JSAF 運営規定に基づき JSAF 公認が必要になっている。

また、JSAF からの補助金が予算化されている大会にもかかわらず、大会後の各種報告書の提出不備で補助金がなされていない大会がある。改善要旨は、手続きの遵守と必要最小限の情報としたワンストップサービスでの対応を目指す。JSAF ホームページに情報公開し、関係者の注意喚起を促したい。

また、全日本大会の JSAF 共同主催・公認・後援などの現状について発言があった。

9) ODC 計測委員会 ERS 改定・IM セミナー試験合格者

前田専務理事から名方 ODC 計測委員長から提出された資料に基づき、2013-2016 セーリング装備規則 (ERS) 改訂に伴うお願いについて報告があった。

2013-2016 セーリング装備規則 (ERS) 改訂に伴い、翻訳・印刷製版の準備ができた。翻訳作業では、これまでの定義も含めた用語を全面的に見直したことにより、各クラス計測技術資質向上に役立つと考えている。また、8 月末の IM セミナー日本開催において 4 名の有資格者を輩出できたとの発言があった。

10) キールポート強化委員会 日中韓キールポート親善レガッタ報告

中澤キールポート強化委員長から資料に基づき、2012 中日韓キールポート親善レガッタについて報告があった。

2012 年 9 月に中国・日照市で開催された「2012 中日韓キールポート親善レガッタ」に日本から〈ターコイズ〉〈月光〉〈コンコード〉の 3 チームが参戦し、〈ターコイズ〉が 2 位になった。今回 5 回目の開催となったが、あと 2 年間は日照市で開催することになった。その後は日本または韓国での開催を要望されている。その他、ルーシャンカップやチャイナカップなども中国で開催されているので、2013 年も日本から多く参加表明をしていただきたい。また、2013 年 3 月 15 日から愛知県で大学対抗マッチレースを開催する。2 月までにマッチレース講習会も開催する予定であるとの発言があった。

11) 普及委員会 日本財団助成事業の報告

斎藤威普及委員長から資料に基づき、普及委員会の今後の活動について報告があった。

日本財団助成事業は、セーリング体験と普及のための人材養成講習会を実施している。2013 年助成事業申請は、セーリング体験教室、安全指導者講習会、教職員セーリング指導者要請講習会、ファミリーセーリング実習教室、マリンスポーツフェスタ、環境キャンペーンなど 6 事業を申請している。来年度当初には、各加盟団体から助成事業の受託要望をし、併せて JSAF 独自の補助事業も募集する。また、普及委員会の活動の一環として、選手育成や競技力向上にも寄与していきたい。「強化と普及」は表裏一体として、JSAF の理念・目標を掲げることで、普及活動を活発にしていきたいとの発言があった。

12) 指導者委員会 平成 24 指導者講師全国研修会の開催

川北指導者副委員長から資料に基づき、平成 24 年指導者講師全国研修会の開催について報告があった。

ジュニアユース世代を育成する指導者のために、12 月 22～26 日に開催される「2012 年度ユースナショナルチーム候補選手強化合宿」において、指導者講師全国研修会を開催する。制式艇種に制定した 420 及びレーザーラジアル、レース 4.7 を使用してセーリング指導技術を研修するとともに、関係者及び受講生が選手の育成指導方法や制式艇種の円滑な導入に関しても意見交換するとの発言があった。

13) 環境委員会 絵画コンテスト報告

永井環境委員長から資料に基づき、JSAF 海の絵画コンテスト 2012 審査結果について報告があった。

JSAF 海の絵画コンテスト 2012 は、10 月 31 日締め切りで、全国の小中学生から応募総数 561 点であった。11 月 27 日に審査をした結果、会長賞ならびに各部門から 10 作品を選定した。2 月発行の J-SAILING に掲載するとともに、7 月 20 日海の日ポスターとして採用する。また、海の絵画コンテストを含めて、環境委員会活動を検討するとの発言があった。

14) レディース委員会 女性アスリートフォーラム

吉留レディース委員長から資料に基づき、女性スポーツリーダーシップカンファレンス 2012 について報告があった。

平成 24 年 11 月 24 日、文部科学省マルチサポート事業の女性アスリート戦略的サポート事業主催で女性スポーツリーダーシップカンファレンス 2012 が開催された。諸外国を参考にして、日本における新たな取り組みの可能性について検討し、女性コーチやサポートスタッフの増加と資質向上について意見交換会があった。スポーツ界における女性リーダーの必要性を共有し、今後もネットワークを広げていくとの発言があった。

15) 外洋艇推進グループ報告

児玉常務理事から資料に基づき、外洋艇推進グループ各委員会の報告があった。

大坪外洋安全委員長から、2012 年度外洋合同委員会会議開催の案内があった。JSAF 外洋艇推進グループに属する委員会（外洋総務・外洋計測・外洋安全）および外洋レース開催に関係する委員会（レース・ルール）を中心に、各委員会合同での会議を沖縄県宜野湾で開催するとの発言があった。

児玉常務理事から、外洋艇情報サイト「On Breeze」で外洋艇登録の案内と有効なセールナンバーを所有している外洋艇一覧を開示している。外洋計測委員会から IRC 委員会活動中間報告ならびに IRC 申請推移に関して報告であるとの発言があった。

植松副会長から、IRC コンgress 2011 の出席報告があった。IRC および ORC レーティング取得数は微減である。US セーリングなどでは、計測ポイントを共通化して新レーティングも考慮しているとの発言があった。

剥岩理事から、第 32 回ミニトン全日本選手権大会の報告があった。鹿児島錦港湾で開催された大会に 15 艇が参加した。選手全員が保母さんという女性のみ艇が参戦、全員が JSAF のメンバーになったことは特筆できるとの発言があった。

浪川監事から、2013 神戸横濱ヨットレースの開催報告があった。神奈川県セーリング連盟主催で 2013 年 4 月 27 日に兵庫県神戸沖をスタート、神奈川県横浜ベイサイドマリナー沖をフィニッシュとするレースであるとの発言があった。

16) 監査報告および平成 24 年度予算管理月報 (9 月末)

斎藤財政委員長から資料に基づき、平成 24 年度監査関連報告および 9 月末予算管理月報について報告があった。

各監査の指摘事項については、一部改善点を指導されたが、補助金・助成金等の認定変更などの重大な指摘は一切なかった。9 月末予算管理月報については、新公益法人会計基準の収支計算書である。また、各委員会あてに平成 25 年度事業計画・予算の提出について依頼したとの発言があった。

平井理事から、事業費の印刷製本費予算額の内、連盟会報誌の PDF 化などの見直しが必要との発言があった。

17) 平成 24 年度メンバー登録数実績 (11 月末)

鈴木常務理事から資料に基づき、平成 24 年 11 月末のメンバー登録実績について報告があった。11 月 30 日現在で総合計 9,650 名である。水域理事においては、引き続き各加盟団体に会員増強を働きかけていただきたい。また、会員数前年比 10% 増強した団体へは感謝状を贈呈することを考慮している。さらに、ジュニア会員へ J-SALING を送付できるか検討したいとの発言があった。

18) 平成 24 年度通常第 2 回理事会議事録 (9 月 8 日)

前田専務理事から資料に基づき、平成 24 年度通常第 2 回理事会議事録 (案) について報告があった。

<その他>

前田専務理事から、平成 25 年 1 月 26 日 (土) に「全国加盟団体代表者会議」を開催するとの報告があった。

前田専務理事から、平成 25 年 1 月 26 日 (土) に日本スポーツマンクラブで「JSAF 新

年会」を開催するとの報告があった。

前田専務理事から資料に基づき、平成 24 年 12 月 8 日、ISAF レースマネジメントセミナーのウエルカムパーティーが浅草で開催されるとの報告があった。

前田専務理事から資料に基づき、国際 420 協会の二ノ会長との協議について報告があった。制式艇種導入の状況報告を踏まえて、2016 年に 420 ワールドを和歌山に招致できるか協議するとの報告があった。

前田専務理事から資料に基づき、平成 24 年 12 月 9 日、「アスリートフォーラム 2012」が早稲田大学講堂で開催されるとの報告があった。

前田専務理事から資料に基づき、JSAF 年末年始の報告があった。

中川副会長から、高円宮殿下を偲ぶ会(高円宮殿下十年祭)に参列したとの報告があった。河野会長から、JSAF 懸案事項について報告があった。 広報活動の強化及びホームページを充実する。 東北被災地に JSAF 普及活動の一環として、物資や指導者の派遣・移動する。 ヨット経験者の教員採用に組織的に対応する。 漁港組合などの協力を得るために、農林水産省や国土交通省に働きかける。 全国代表者会議において、各団体から成功事例(行政や地元商店街などとタイアップした企画や協力・支援方法、教員採用、ハーバー管理委託、会員を増加した理由など)の情報をいただきシェアする。 女性セーラーを増やす方策を考える。 環境問題。 会員増強をした団体へは感謝状を贈呈する。 JSAF オフィシャルグッズを提供してスポンサーを獲得するなどの提案があった。

平成 24 年度通常(第 3 回)理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成 24 年 12 月 8 日

議 長 会 長 河 野 博 文

議事録署名人 理 事 平 井 昭 光

議事録署名人 理 事 守 本 孝 造

副 会 長 西 岡 一 正

副 会 長 植 松 眞

副 会 長 森 山 雄 一

副 会 長 中 川 千 鶴 子

専 務 理 事 前 田 彰 一

常 務 理 事 児 玉 萬 平

常 務 理 事 鈴 木 修

監 事 浪 川 宏

監 事 栗 原 博

監 事 中 村 隆 夫